

# 映画『ハリエット』 米国が誇る偉大な女性の 知られざる真実の物語



©Universal Pictures



©Universal Pictures



## 【公開情報】

### 映画『ハリエット』

3月27日(金)全国順次ロードショー

© 2019 Focus Features LLC.

監督:ケイシー・レモンズ

出演:シンシア・エリヴォ、レスリー・オドム・Jr、ジャネール・モネイほか

原題:HARRIET

2019年/アメリカ/125分/カラー/シ

ネスコ

配給:パルコ

## 【新譜情報】

### 『ハリエット』

#### オリジナル・サウンドトラック

音楽:テレンス・ブランチャード

3月25日発売

RBCP-7418

2,640円(税込)

輸入盤:国内流通仕様

ハリエットを新しい20ドル紙幣のデザインに採用する案はオバマ政権下で決まったが、現在トランプ大統領によって延期を余儀なくされている。

ハリエット・タブマン  
その波乱に満ちた生涯

アフリカ系アメリカ人として史上初めて、ドル紙幣に肖像が使用されることが決まっているハリエット・タブマンは1822年生まれ。6歳から奴隷として働かされ、常に虐待を受けていた。1844年に自由黒人のジョン・タブマンと結婚するも、奴隷主の借金返済のために売り飛ばされそうになり、脱走を決意。様々な苦難を乗り越えて、メリーランド州の東岸からテラウエア州を経由し、奴隷制が廃止された「自由州」のフィラデルフィアに辿り着く。その後は同地で逃亡奴隷を援助する「地下鉄道」と呼ばれた秘密組織に加わり、ネットワークを使って安全なルートを設定して大勢の奴隷たちを導き、寝食の場や新しい身分証などを提供する先導役の「車掌」として活躍。その英雄的な行いから、旧約聖書でイスラエルの民を率いてエジプトを脱出した預言者になぞらえて「黒人たちのモーゼ」と称えられるようになった。南北戦争でも黒人兵士を率いて戦った彼女は、終戦後は婦人参政権運動に参加するなど、女性と黒人の地位向上を目指す活動に余生を捧げたという。

劇中の黒人霊歌など  
音楽面の充実も魅力

《ハリエット》は生涯で800人以上の奴隷解放を手助けした偉大な女性、ハリエット・タブマンの激動の人生を描いた映画。不屈の精神を持つ主人公を演じたのは、《カラー・パープル》のセリー役でブロードウェイ・デビューを果たし、同作でトニー賞ミュージカル部門の主演女優賞に輝いたほか、グラミー賞、エミー賞などを受賞しているシンシア・エリヴォ。映画出演3作目である今回も存在感のある演技を披露し、「第92回アカデミー賞」では主演女優賞の候補にもなった。また、音楽面が充実しているのも本作の大きな魅力のひとつ。同賞歌曲賞にもノミネートされ、2月に行われたオスカー授賞式での圧巻パフォーマンスも記憶に新しい、シンシア・エリヴォ自身の歌唱による主題歌《スタン・アップ》や、現代のジャズ・シーンを代表するトランペット奏者にして、スパイク・リー監督の作品でもお馴染みのコンポージー・テレンス・ブランチャードが手がけたサントラが素晴らしい。加えて劇中に流れる黒人霊歌も必聴。奴隷たちのルーツであるアフリカの民族音楽が、北米で白人たちに強制されたキリスト教と結びついて生まれた信仰の歌は、ブルースやジャズなどの源流のひとつなのである。

【東端哲也】